ＨＰＶワクチンを接種される男の子と保護者の方へ

HPVワクチンの予防接種を実施するにあたって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、以下のHPVワクチンに関する情報を必ずお読みください。また予診票にはできるだけ詳しくご記入ください。

HPVワクチンの特徴

1. ヒトパピローマウイルス（HPV）は、子宮頸がんおよびその前がん病変をはじめ、外陰や腟に発症する病変（外陰上皮内腫瘍や腟上皮内腫瘍）、肛門がん（扁平上皮癌）およびその前がん病変、尖圭コンジローマを引き起こすウイルスです。子宮頸がんおよびその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、腟上皮内腫瘍、肛門がん（扁平上皮癌）およびその前がん病変、尖圭コンジローマの発症に関係しているHPVのうち、シルガード®9は、6、11、16、18、31、33、45、52、58 型の9つのHPV型の感染を予防するワクチンです。また、ガーダシル®は、HPV6、11、16、18型の4つのHPV型の感染を予防するワクチンです。
2. HPVワクチンを接種しても、これらの型以外のHPV感染および病変発症の予防効果は期待できません。また、すでにこれらのHPV型に感染している人に対してHPVワクチンを接種しても、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変などの進行を遅らせたり、治療することはできません。
3. HPVワクチンの接種時にワクチンに含まれるいずれかのHPV型に感染している場合、そのHPV型に対する予防効果は期待できませんが、これらすべてのHPV型に感染している可能性は低いため、1つの型のHPVに感染している場合でも他の型のHPVに対する予防効果は期待できます。
4. HPVに感染する機会が少ない10代前半にHPVワクチンを接種することで、ワクチンに含まれるHPV型による子宮頸がんおよびその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、腟上皮内腫瘍、肛門がん（扁平上皮癌）およびその前がん病変、尖圭コンジローマの発症をより効果的に予防することができます。
5. 予防効果の持続期間は確立していません（※シルガード®9で3回接種後10年間、ガーダシル®で14年間までの追跡試験結果が報告されており、その期間までは予防効果の持続が確認されています）。

HPVワクチンの副反応について

1. HPVワクチンの接種と関連性があると考えられた主な副反応は以下のとおりです。

シルガード®9		ガーダシル®	
頻度 10%以上	頭痛、注射部位の痛み・腫れ・赤み	頻度 10%以上	注射部位の痛み・赤み・腫れ
頻度 1～10%未満	体がふらつくめまい、悪心（吐き気や胸やけ、胃がむかむかする）、下痢、注射部位のかゆみ・内出血・しこり、発熱、疲れ	頻度 1～10%未満	頭痛、注射部位のかゆみ、発熱
頻度 0.5～1%未満	上咽頭炎、インフルエンザ、のどの痛み、おう吐、上腹部痛、腹痛、筋肉痛、関節の痛み、だるさ、注射部位の出血・血腫・熱っぽさ・硬結・知覚低下、注射部位反応	頻度 0.1～1%未満	体がふらつくめまい、感覚が鈍くなる、傾眠（刺激がないと眠ってしまう）、体が回転しているように感じる、下痢、腹痛、悪心、手足の痛み、筋肉が硬くなる、手足の不快感、注射部位のしこり・出血・不快感・内出血・変色・知覚低下・熱感、だるさ、白血球数増加
頻度不明	蜂巣炎（皮ふ局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ）、リンパ節の腫れ・痛み、感覚の低下、気を失う、手足の痛み、無力症（脱力など）、寒気、注射部位の知覚消失・結節	頻度不明	皮ふ局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ、リンパ節の腫れ・痛み、失神、おう吐、関節の痛み、筋肉痛、注射部位の血腫、無力症（脱力など）、寒気、疲れ、注射部位の結節

2. 過敏症反応（アナフィラキシー〈呼吸困難、目や唇のまわりの腫れなど〉、気管支痙攣〈発作的な息切れ〉、じんましんなど）、ギラン・バレー症候群（下から上に向かう両足のまひ）、血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など）、急性散在性脳脊髄炎（まひ、知覚障害、運動障害など）があらわれることがあります。このような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。
3. シルガード®9またはガーダシル®を適正に接種したにもかかわらず、健康被害が発生した場合には、その内容、程度に応じて薬事・食品衛生審議会での審議を経て「医薬品副作用被害救済制度」により治療費などが受けられる場合があります。詳しくは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページをご覧ください。

[裏面もご覧ください]

次の方は接種を受けることができません

1. 明らかに発熱している方(通常は37.5℃以上の場合)。
2. 重い急性疾患にかかっている方。
3. シルガード®9またはガーダシル®の成分(詳しくは医師にお尋ねください)によって、過敏症(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む)をおこしたことがある方。
4. その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

次の方は接種前に医師にご相談ください

1. 血小板減少症や凝固障害を有する方。
2. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
3. 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方。
4. 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方。
5. 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは先天性免疫不全症と診断された近親者がいる方。
6. シルガード®9またはガーダシル®の成分によって、アレルギーの症状がみられる可能性のある方。
7. 他のHPVワクチンの接種を受けたことがある方。

シルガード®9接種にあたっての注意点

1. シルガード®9の接種対象者は9歳以上の者です。
2. シルガード®9は初回接種(1回目)、2ヵ月後(2回目)、6ヵ月後(3回目)に、通常、腕の筋肉内に接種します。
3. 9歳以上15歳未満の者は、初回接種から6～12ヵ月の間隔を置いた合計2回の接種で完了する方法を選択できます。事前に接種回数と時期について医師にご相談ください。
4. シルガード®9の十分な予防効果を得るためには2回または3回接種する必要があります。
5. 1回目にシルガード®9を接種した場合は、2回目以降もシルガード®9を使用してください。2回目以降で他のワクチンを接種した場合の予防効果は確認されていません。

ガーダシル®接種にあたっての注意点

1. ガーダシル®の接種対象者は9歳以上の者です。
2. ガーダシル®は初回接種(1回目)、2ヵ月後(2回目)、6ヵ月後(3回目)に、通常、腕の筋肉内に接種します。
3. ガーダシル®の十分な予防効果を得るためには3回接種する必要があります。
4. 1回目にガーダシル®を接種した場合は、2回目以降もガーダシル®を使用してください。2回目以降で他のワクチンを接種した場合の予防効果は確認されていません。

接種後の注意

1. 接種後は強く揉まず、軽く押さえる程度にとどめてください。
2. 接種後に、注射による恐怖、痛みなどが原因で、気を失うことがあります。気を失って転倒してしまうことをさけるため、接種後すぐに帰宅せず、30分程度は接種した医療機関で座って安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしておいてください。
3. 接種した後に、注射した部位が腫れたり、痛むことがありますが、これは、体内に備わっている抵抗力が注射した成分を異物として認識するためにおこります。通常は数日間程度で治まります。
4. 接種後は、接種部位を清潔に保ってください。
5. 接種当日は、過激な運動を控えてください。
6. 接種した日の入浴は問題ありません。
7. 接種後1週間は体調に注意し、気になる症状があるときは医師にご相談ください。

接種予定日	月　　日（　）	医療機関名	
	時　　分頃		